

今日のトピック メキシコの金融政策(2014年10月)

3会合連続で政策金利を据え置き

ポイント1 予想通り政策金利を据え置き

政策金利は過去最低の3%

- メキシコ銀行(中央銀行、以下中銀)は10月31日、政策金利(翌日物銀行間レート)を過去最低の3.0%に据え置くことを決定しました。
- 政策金利は、6月の会合で3.5%から3.0%に引き下げられた以降、3会合連続で据え置きとなりました。ブルームバーグによると、27名のエコノミストのうち、26名が据え置きを予想していました(1名は0.25%の利下げを予想)。

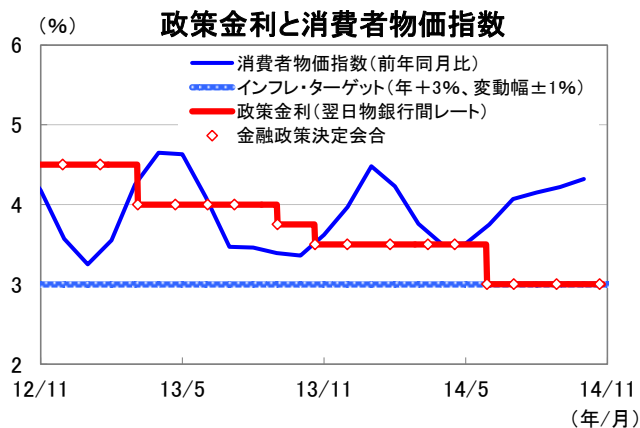
ポイント2 緩やかな景気回復に配慮

足元の物価高は特殊要因が影響

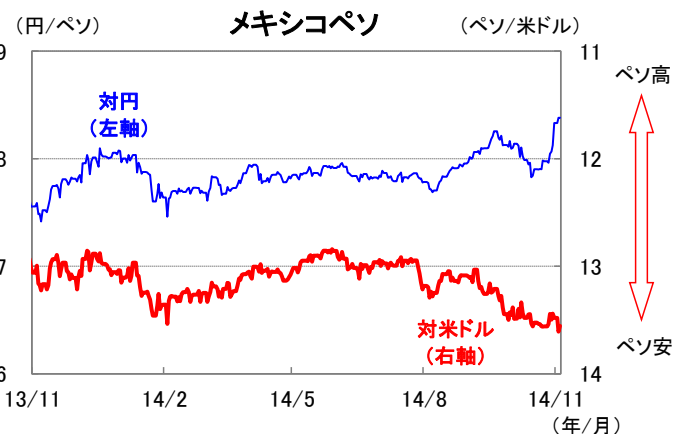
- 声明文では、景気回復が緩やかなものにとどまっており、需要面からの物価上昇圧力は当面ほとんどないとの考えが示されました。
- 10月前半の消費者物価指数は前年同月比+4.32%と、7月以降中銀の目標(年+3%、変動幅±1%)の上限を超えて推移しています。中銀は、足元の物価高は食肉の値上がりなど特殊要因による影響が大きいと見ています。
- こうした見方から、中銀は政策金利を引き続き過去最低水準に据え置くことが適切と判断したものとされます。

今後の展開 政策金利は当面維持され、メキシコペソは底堅く推移する見込み

- 中銀は、米国の景気が底強いことや国内で各種構造改革が進んでいることなどが景気の下支えになるとの考えを示しました。
- 物価に関しては、ペソの米ドルに対する更なる下落や最低賃金の引き上げなどを押し上げ要因として警戒しています。ただし、景気の弱さや通信料金の一段の引き下げなどにより、物価上昇率は来年前半には目標の年+3%に向けて低下すると見えています。
- こうした見通しから、中銀は政策金利を当面維持すると見込まれます。米国の利上げ観測が高まる場合にペソの対米ドルでの下落が懸念されますが、米国景気の加速はメキシコ景気にとっても好材料です。先進各国と比較して金利水準が高いこともあり、ペソは底堅く推移しそうです。



(注)政策金利は2012年11月1日~2014年11月4日。
消費者物価指数は2012年11月~2014年10月(2014年10月は月前半)。
(出所)Bloomberg L.P.、メキシコ銀行のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成



(注)データは2013年11月1日~2014年11月4日。
(出所)Bloomberg L.P.データを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック! 2014年10月31日【デイリー No.1,981】米国のGDP成長率(2014年7-9月期速報値)
2014年10月30日【デイリー No.1,980】米国の金融政策(2014年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。